

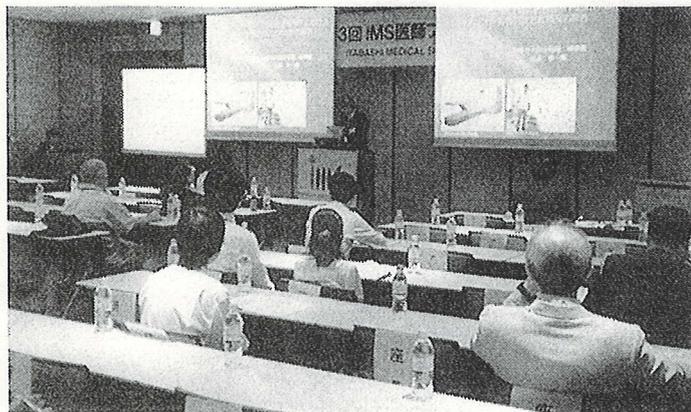
研修医の研修成果を発表

## I MS 医師フォーラム開く

### ロボット手術の特別講演も実施

「第3回I MS（イムス）医師フォーラム」が10日、東京・千代田区大手町の日経カンファレンスルームで開催された。

I MSグループは、関東、東北、北海道、ハワイに病院、介護老人保健施設、有料老人ホームを52施設有し、ほかに診療所、ドック健診施設、看護学校など、関連事業所を多数展開しているベッド数11,000床（職員数16,000人）のグループである。



「I MS医師フォーラム」は、グループの臨床研修指定病院（板橋中央総合病院、横浜旭中央総合病院、春日部中央総合病院、新松戸中央総合病院、東戸塚記念病院の5施設）で初期研修医として勤務している40名のうち、2年目の研修医（19名）が自ら興味を持った内容を自身でまとめた研修成果を発表するもの。今回は発表に先立ち、来年夏にオープンする同グループの東京腎泌尿器センター

「大和病院の志賀淑之院長による「泌尿器科領域におけるロボット手術（da Vinci）の今後の展望」の特別講演も行われた。フォーラムの開催に先立ちI MSグループの中村哲也理事長が「発表が目的ではなく、この機会をステップに患者に対して役立てることが大切。次のステップに向けて頑張ってほしい」とあいさつ。

特別講演で志賀院長は、『ダウインチャージカルシステムについて』、『泌尿器科領域におけるダウインチャージカルシステムについて』を発表した。その特長について高解像度3D画像（肉眼の10倍拡大視野）、自然な操作性（とり回しが非常に自然）等を上げ、世界の普及状況を紹介した。また、適応可能な領域は、▽一般消化器外科

▽泌尿器科▽婦人科▽胸部外科とし、「動かない臓器で人の手が届かない箇所である骨盤領域においても威力を発揮する」と述べた。泌尿器科領域においては、難しい手術とされる根治的前立腺全摘除術に有効と解説、「開創手術と比較して出血が少なく、術後疼痛が軽微。腹腔鏡手術と比較して手技の習得が格段に容易である」と述べた。さらに、泌尿器科領域の今後の展望について「再建術、形成術の領域で絶大な威力を発揮できると思われる」と結んでいた。

特別講演の後、金森幸一郎氏（板橋中央総合病院）による「当院の呼吸器科診療（特に肺腫瘍診療）におけるPET/CT検査の現状と有用例の報告」、杉井政澄氏（同）による「心不全治療中に心タンポナーデを来したし、膿性心嚢液より口腔内常在菌が検出された一例」、深澤陽子氏（同）による「胃幽門部癌を合併したListeria monocytogenesによる感染性心内膜炎の一例」など、19題の臨床研修発表が行われた。